清酒の製造状況等について

平成 30 酒造年度分

目　　次

１．調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２．調査結果の総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
３．清酒の製造場数等・・・・・・・・・・・・・・・・・３
４．清酒の製造数量・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
５．原料米の使用数量等・・・・・・・・・・・・・・・・10
６．原料用アルコールの使用数量・・・・・・・・・・13
＜参考１＞平成 30 酒造年度清酒製造状況一覧
＜参考２＞平成 30 酒造年度都道府県別清酒製造数量
＜参考３＞清酒製造数量の推移
＜参考４＞玄米使用数量の推移
＜参考５＞特定名称酒の課税移出数量等の推移
＜参考６＞清酒のタイプ別課税移出数量の推移

国税庁　課税部　鑑定企画官

１　調査の概要

１－１　調査目的

この調査は、個々の清酒製造業者の清酒製造状況を分析し、各国税局鑑定官室の諸施策に活用することにより清酒の品質の確保に資するとともに、日本国内における清酒の製造及び製造に関連する事項の実態を把握した上で、国税庁の行う各種施策を通じて、清酒製造業の発達改善に資することを目的としています。

１－２　調査対象期間

調査対象期間は、平成 30 酒造年度（平成 30 年７月１日～令和元年６月 30 日）としています。

１－３　調査対象者

調査対象者は、清酒の製造免許を有する酒類製造者とし、調査表を清酒製造場又は蔵置場ごとに御提出いただいています。

２　調査結果の総括

平成 30 酒造年度においては、当該調査対象期間に清酒を製造した場数、清酒全体の製造数量ともに前年度と比較して減少傾向にあります。

また、特定名称清酒の製造数量についても減少傾向にあります。純米酒の製造数量は前年度比 11％減となった一方、純米吟醸酒に着目すると、前年度比 0.7％減とほぼ横ばいであるものの、平成 26 酒造年度比で約 20％増と、中期的には増加傾向で推移しています。

原料米の使用数量は減少傾向にあります。過去５年の推移において、平均精米歩合はほぼ横ばいですが、純米吟醸酒については低下しており、より精白されている傾向にあります。

これらをまとめると、清酒全体の製造場数、製造数量は減少傾向にある一方で、高精白の純米吟醸酒の割合が増えている傾向にあります。

３　清酒の製造場数等

３－１　概要

清酒製造場数は全体として減少傾向にありますが、純米酒や純米吟醸酒の製造場数はほぼ横ばいです。

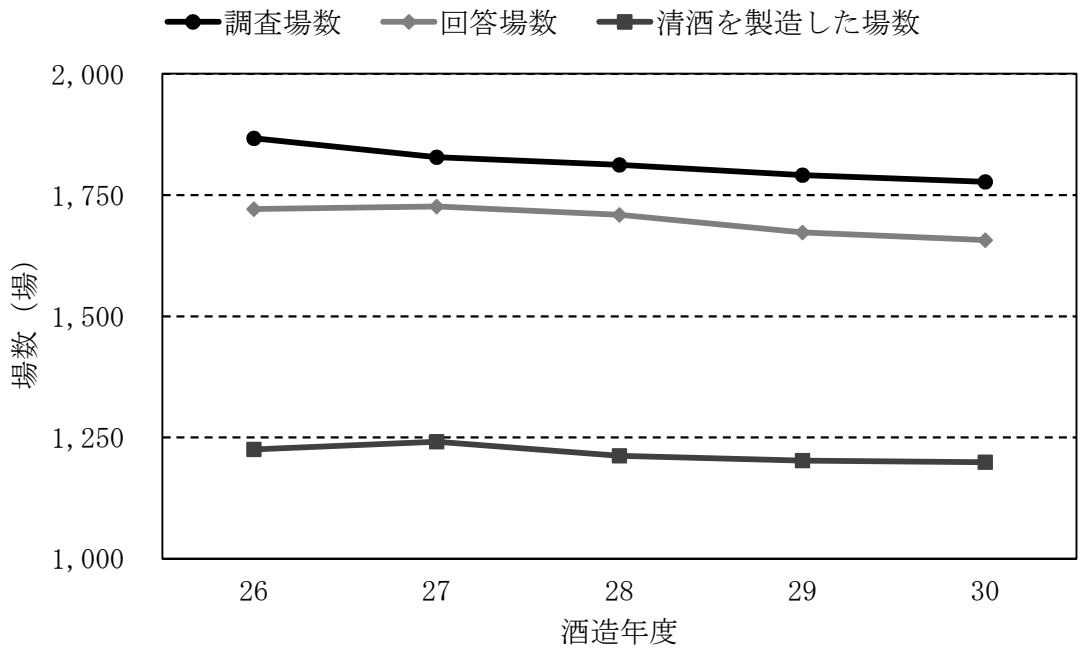
３－２　解説

調査場数(蔵置場を含む)1,777 場のうち、回答場数は 1,657 場(回収率 93.2%)であり、そのうち平成 30 酒造年度において清酒を製造した場数は 1,199 場で、平成 27 酒造年度より漸減傾向が続いています。

製造方法別の製造場数は、特定名称清酒においては、純米酒 1,035 場（前年度 1,023 場)、純米吟醸酒 1,105 場（同 1,094 場)、吟醸酒 834 場（同 867 場)、本醸造酒 781 場（同 787 場）であり、特定名称清酒以外の清酒（以降、「一般酒」と表記します。）は 824 場（同 839 場）となっています。

全調査場数等の推移は図３－１、表３－１、製造方法別調査場数の推移は図３－２、表３－２のとおりです。

図３－１　全調査場数等の推移



（参考）平成 26 酒造年度を基点とした場数の比率

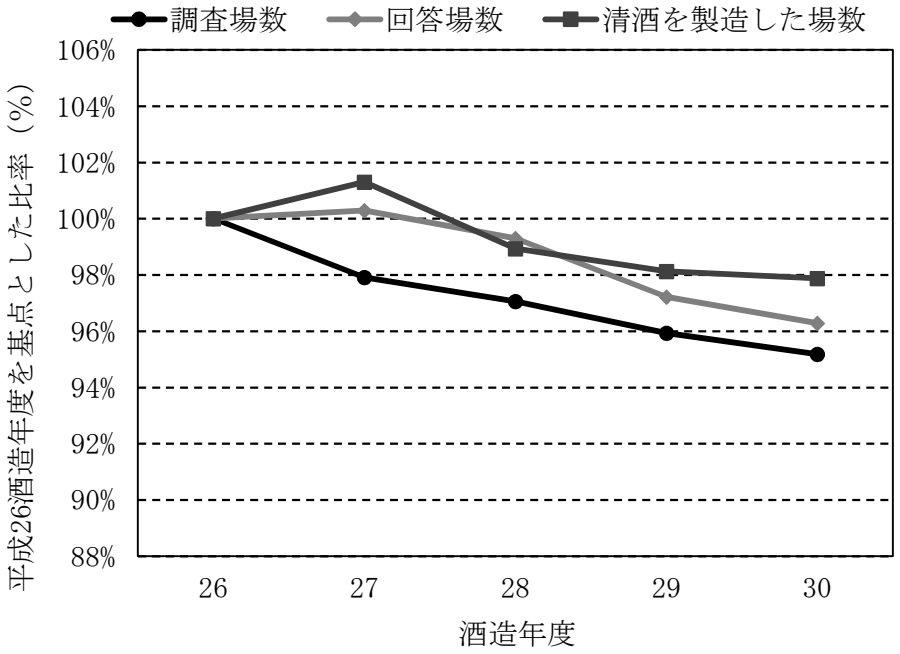
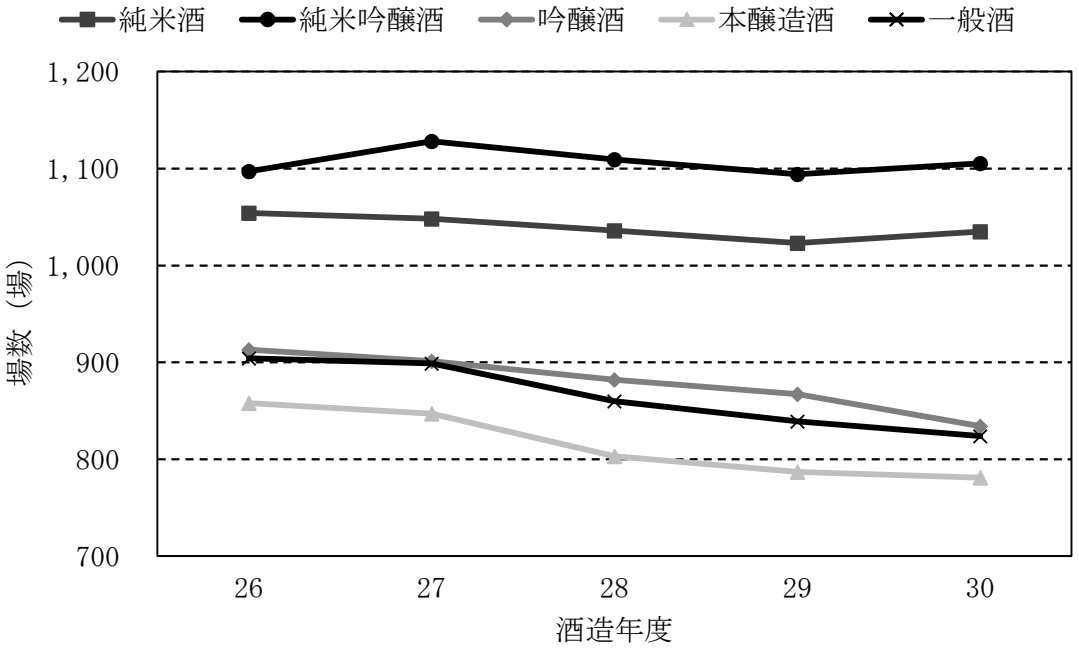


図３－２　製造方法別調査場数の推移



（参考）平成 26 酒造年度を基点とした場数の比率

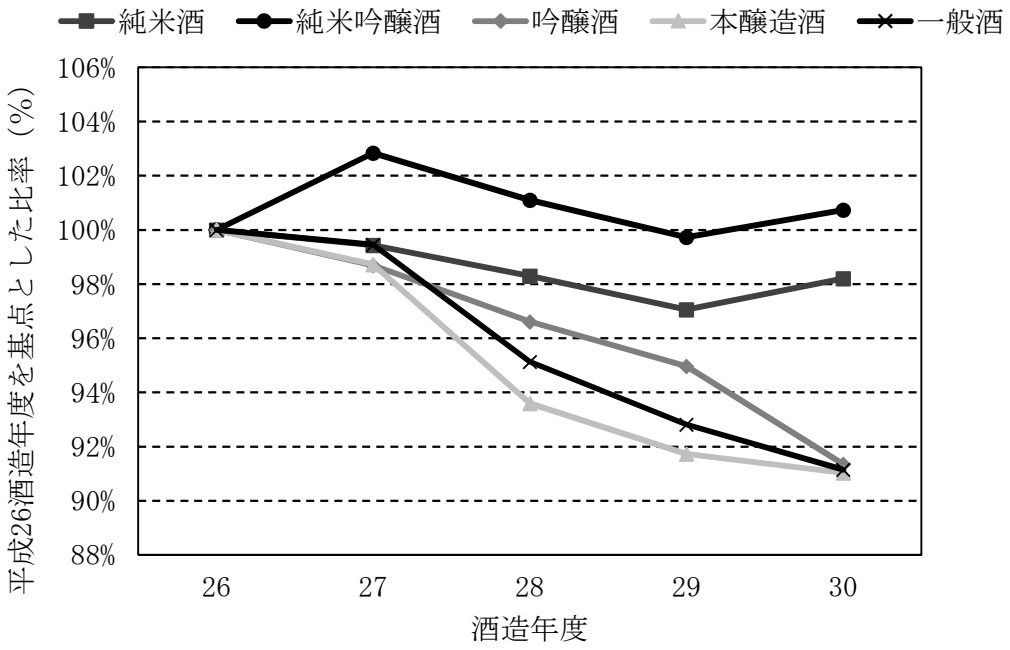


表３－１　全調査場数等の推移

区分＼酒造年度	26	27	28	29	30
調 査 場 数	場 1,867	場 1,828	場 1,812	場 1,791	場 1,777
回 答 場 数	1,721	1,726	1,709	1,673	1,657
（内）清酒を製造した場数	1,225	1,241	1,212	1,202	1,199

表３－２　製造方法別調査場数の推移

区分＼酒造年度	26	27	28	29	30
純　米　酒	場 1,054	場 1,048	場 1,036	場 1,023	場 1,035
純米吟醸酒	1,097	1,128	1,109	1,094	1,105
吟　醸　酒	913	901	882	867	834
本 醸 造 酒	858	847	803	787	781
一　般　酒	904	899	860	839	824

４　清酒の製造数量

４－１　概況

清酒全体の製造数量は減少傾向にありますが、純米吟醸酒の製造数量は中期的には増加傾向にあります。

４－２　解説

平成30酒造年度における清酒の製造数量（アルコール分20度換算数量）は、381,749kl(対前年度比6.3%減)です。そのうち、特定名称清酒の製造数量は、159,836kl(対前年度比6.3%減)となっています。

特定名称清酒の製造方法別の製造数量を前年度と比較すると、純米酒は対前年度比11.0%減、純米吟醸酒は同0.7%減、吟醸酒は同2.8%減、本醸造酒は同8.7%減となっています。

中期的な製造数量の推移をみると、純米酒については、平成26酒造年度比約５%減となった一方、純米吟醸酒では同年度比約20%増と、製造数量が増加傾向にあります。

製造方法別製造数量の推移は図４－１及び表４－１のとおりで、純米酒、純米吟醸酒の製造数量の推移は図４－２のとおりです。

図４－１　製造方法別製造数量の推移

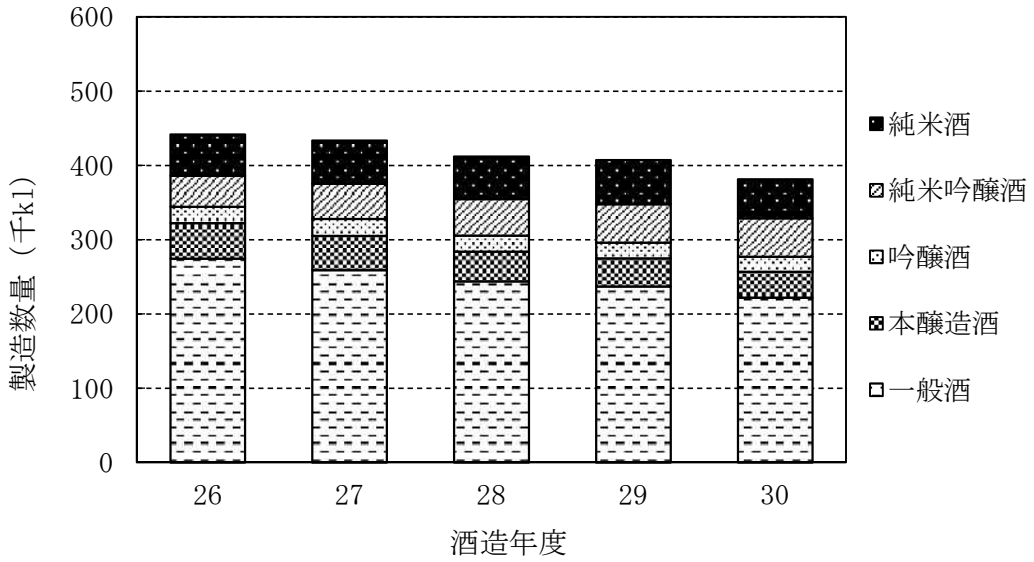


図４－２　純米酒、純米吟醸酒の製造数量の推移

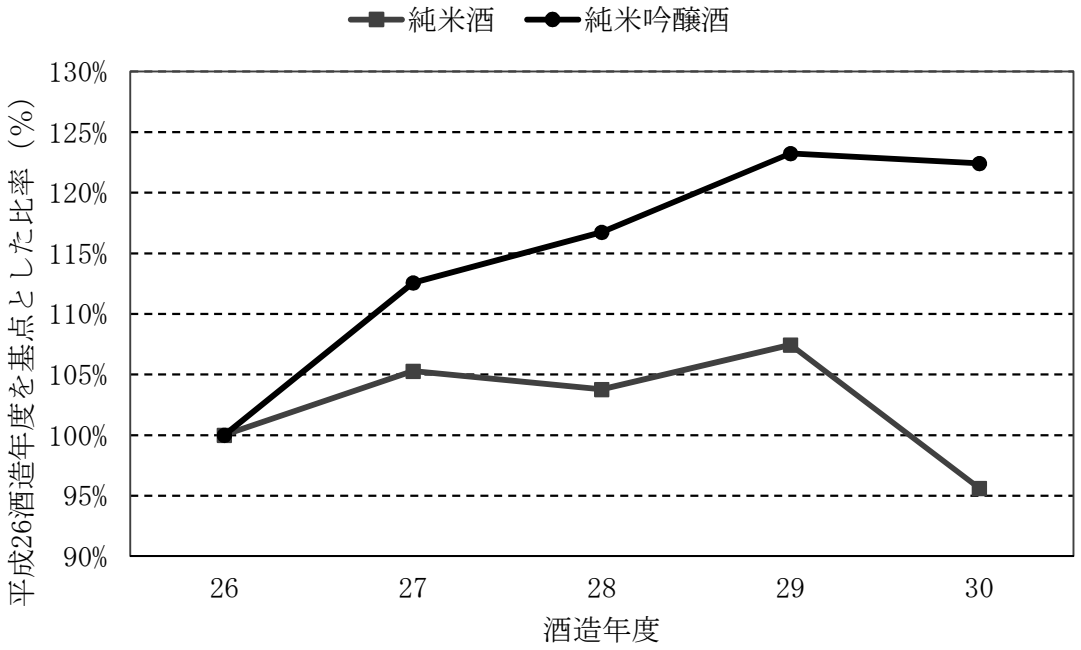


表４－１　製造方法別製造数量（アルコール分 20 度換算）の推移

区分 ＼ 酒造年度	26	27	28	29	30	前年度比
	kl	kl	kl	Kl	Kl	%
純　米　酒	(12.5)	(13.4)	(13.9)	(14.6)	(13.9)	
	55,398	58,322	57,491	59,519	52,970	89.0
純米吟醸酒	(9.5)	(10.9)	(11.9)	(12.7)	(13.5)	
	42,063	47,348	49,103	51,831	51,488	99.3
吟　醸　酒	(5.0)	(5.3)	(5.2)	(5.2)	(5.4)	
	22,105	22,984	21,489	21,149	20,557	97.2
本 醸 造 酒	(10.8)	(10.6)	(9.8)	(9.4)	(9.1)	
	47,558	45,947	40,232	38,144	34,821	91.3
(特定名称の清酒)	(37.8)	(40.3)	(40.8)	(41.9)	(41.9)	
小　　計	167,124	174,601	168,314	170,643	159,836	93.7
一　般　酒	(62.2)	(59.7)	(59.2)	(58.1)	(58.1)	
	274,721	259,120	243,955	236,920	221,914	93.7
合　　計	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	
	441,845	433,721	412,270	407,563	381,749	93.7

（注）1.（　）書は、構成比(%)です。
　　2. 集計値の端数処理の関係で、各値の合計が合計値と異なる場合があります。

５　原料米の使用数量等

５－１　概要

原料米使用数量は減少傾向にあります。平均精米歩合はほぼ横ばいですが、近年純米吟醸酒で低下しており、より精白されている傾向にあります。

５－２　解説

平成 30 酒造年度における清酒用原料米は、玄米としては 227,025t（対前年度比 5.2%減）、白米としては 145,619t（同 6.1%減）が使用されています。原料米使用数量は減少傾向にあります。原料米使用数量の推移は図５－１及び表５－１のとおりです。

平均精米歩合は 63.0%（前年度 63.5%）で、ほぼ横ばいです。純米吟醸酒の精米歩合については、平成 26 年度比で-2.4%と低下しており、近年より精白されている傾向にあります。平均精米歩合の推移は図５－２及び表５－２のとおりです。

図５－１　原料米使用数量の推移

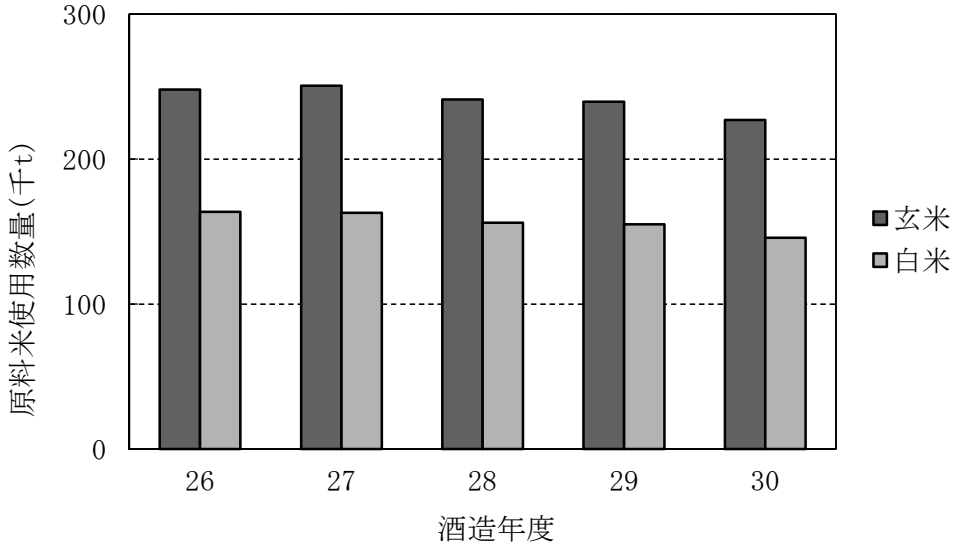
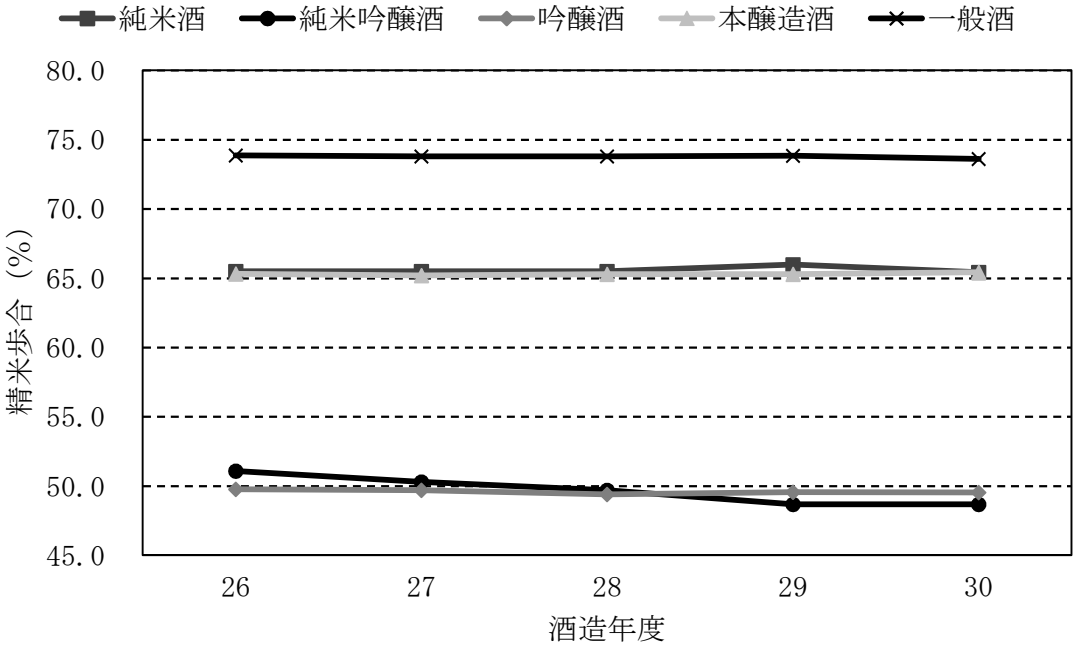


図５－２　製造方法別平均精米歩合の推移



（参考）平成 26 酒造年度を基点とした場合の精米歩合の比率

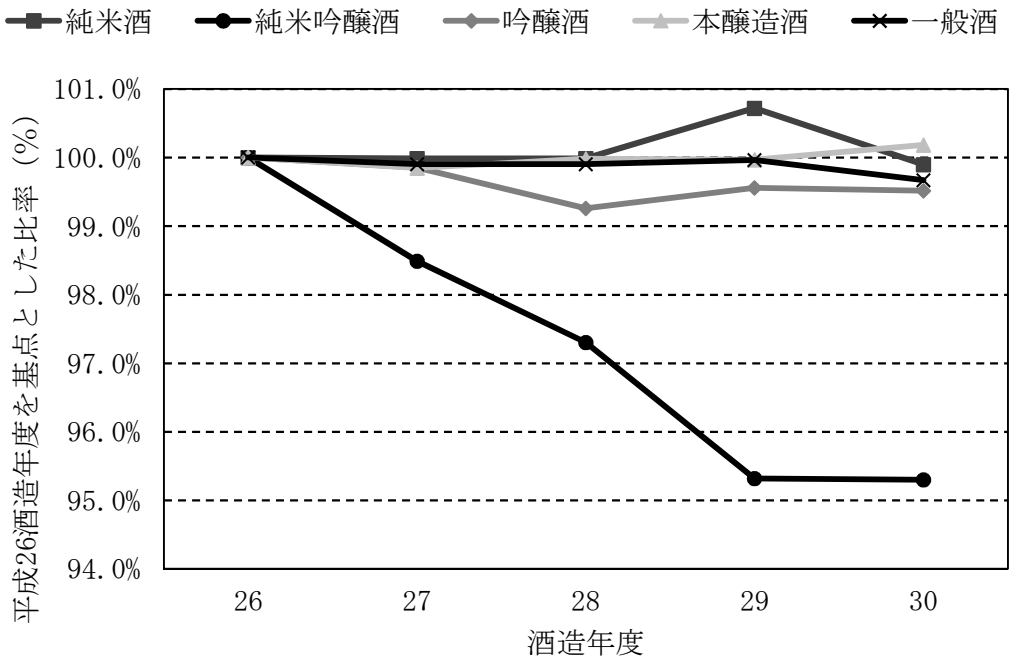


表５－１　原料米使用数量の推移

区分＼酒造年度	26	27	28	29	30	前年度比
玄　　米	t 248,019	t 250,537	t 241,022	t 239,517	t 227,025	% 94.8
白　　米	163,519	163,005	156,110	155,007	145,619	93.9

表５－２　平均精米歩合の推移

区分＼酒造年度	26	27	28	29	30
純　米　酒	% 65.5	% 65.5	% 65.5	% 66.0	% 65.4
純米吟醸酒	51.1	50.3	49.7	48.7	48.7
吟　醸　酒	49.8	49.7	49.4	49.5	49.5
本 醸 造 酒	65.3	65.2	65.3	65.3	65.4
一　般　酒	73.9	73.8	73.8	73.8	73.6
全　　体	65.4	64.6	64.0	63.5	63.0

６　原料用アルコールの使用数量

６－１　概要

原料用アルコールの使用数量は減少傾向にあります。

６－２　解説

平成30酒造年度の清酒製造に使用された原料用アルコールの数量(アルコール分 100 度換算数量）は 21,400kl（対前年度比 6.3%減）で使用数量は減少傾向にあります。白米１ｔ当たりに換算すると 147.01（同 0.2%減）となり、ほぼ横ばいです。原料用アルコールの使用数量の推移は図６及び表６のとおりです。

図６　原料用アルコール使用数量（アルコール分 100 度換算）の推移

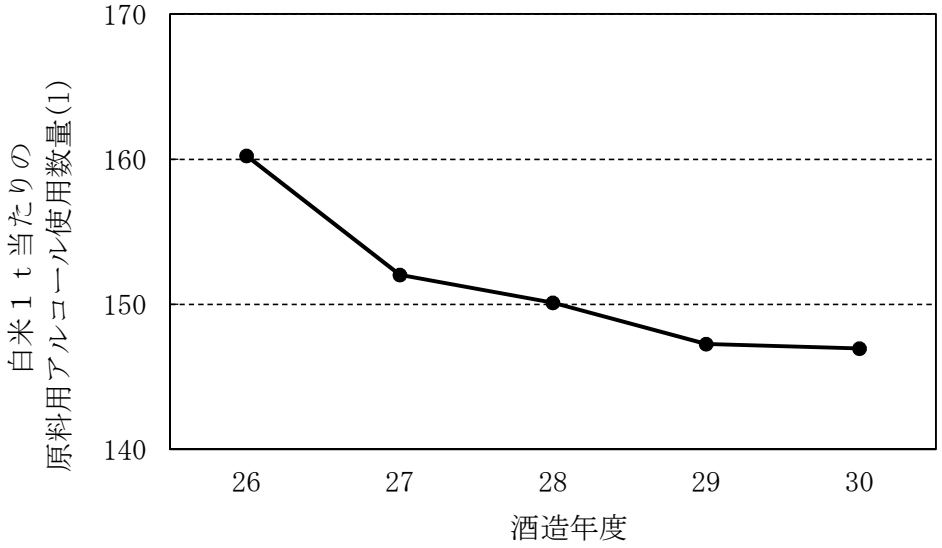


表６　原料用アルコール使用数量（アルコール分 100 度換算）の推移

区　分 ＼ 酒造年度	26	27	28	29	30	前年度比
使用数量	kl 26,201	kl 24,783	kl 23,432	kl 22,828	kl 21,400	% 93.7
白米１ｔ当たり使用数量	1 160.2	1 152.0	1 150.1	1 147.3	1 147.0	% 99.8

＜参考１＞

平成30酒造年度清酒製造状況一覧

区分	製造場数	製成清酒			
		実数		平均アルコール分	平均日本酒度
			純アル数量		
	場	kl	kl	度	度
純米酒	1,035	59,606	10,594	17.8	1.4
純米吟醸酒	1,105	60,450	10,298	17.0	0.7
吟醸酒	834	22,144	4,111	18.6	3.2
本醸造酒	781	35,490	6,964	19.6	3.1
一般酒	824	216,907	44,383	20.5	1.4
全体	**1,199**	**394,597**	**76,350**	**19.3**	**1.5**

区分	製成かす	使用原料			
	実数	米		アルコール又は焼酎	
		玄米	白米	(純アル数量)	白米1tあたり
	t	t	t	kl	l
純米酒	7,916	42,295	27,676	—	—
純米吟醸酒	9,959	57,974	28,220	—	—
吟醸酒	3,071	17,955	8,893	902	101.4
本醸造酒	4,112	22,190	14,520	1,618	111.4
一般酒	13,850	86,610	66,310	18,879	284.7
全体	**38,909**	**227,025**	**145,619**	**21,400**	**147.0**

区分	使用原料					
	糖類		酸類			
	ぶどう糖	水あめ	乳酸	こはく酸	くえん酸	りんご酸
	kg	kg	kg	kg	kg	kg
純米酒	—	—	—	—	—	—
純米吟醸酒	—	—	—	—	—	—
吟醸酒	—	—	—	—	—	—
本醸造酒	—	—	—	—	—	—
一般酒	1,072,100	2,519,432	12,759	8,267	3,910	409
全体	**1,072,100**	**2,519,432**	**12,759**	**8,267**	**3,910**	**409**

区分	使用原料			各種歩合	
	清酒かす	清酒		精米歩合	かす歩合
		実数	純アル数量		
	t	kl	kl	%	%
純米酒	—	—	—	65.4	28.6
純米吟醸酒	—	—	—	48.7	35.3
吟醸酒	—	—	—	49.5	34.5
本醸造酒	—	—	—	65.4	28.3
一般酒	20	42	6	73.6	20.9
全体	**20**	**42**	**6**	**63.0**	**26.7**

（注） 1. 集計値の端数処理の関係で、各値の合計が合計値と異なる場合があります。
2. 純アル数量とは、製成清酒（実数）に含まれるアルコール分(100度換算)の数量をいいます。
3. 日本酒度とは清酒の比重を表す指標です。
4. 精米歩合とは、玄米からぬか、胚芽等の表層部を取り去った状態の米の、その玄米に対する重量の割合をいいます。

＜参考２＞　平成 30 酒造年度都道府県別清酒製造数量（アルコール分 20 度換算）

数量(kl) 都道府県	清酒全体	内 特定名称酒	内 吟醸系	内 純米系	数量(kl) 都道府県	清酒全体	内 特定名称酒	内 吟醸系	内 純米系	数量(kl) 都道府県	清酒全体	内 特定名称酒	内 吟醸系	内 純米系
北海道	3,762	2,278	649	1,615	神奈川県	824	742	458	562	鳥取県	628	513	263	424
青森県	3,467	2,665	1,222	2,262	山梨県	8,473	2,884	861	2,674	島根県	1,659	1,072	501	959
岩手県	3,046	2,018	1,012	1,444	富山県	3,639	3,165	1,044	1,343	岡山県	2,029	1,311	503	761
宮城県	5,881	5,568	1,386	3,686	石川県	5,407	4,300	1,113	3,445	広島県	6,574	3,973	1,906	2,648
秋田県	13,029	7,501	3,825	4,824	福井県	2,779	2,238	1,502	1,427	山口県	6,918	6,409	5,841	6,116
山形県	7,484	6,401	3,763	4,247	岐阜県	3,222	2,198	1,113	1,382	徳島県	347	296	174	148
福島県	9,939	5,904	3,007	4,555	静岡県	3,556	3,068	1,150	1,814	香川県	867	733	192	304
茨城県	3,031	1,601	728	1,197	愛知県	11,323	3,110	1,227	1,641	愛媛県	1,335	776	552	493
栃木県	6,885	2,456	1,382	1,995	三重県	2,109	1,796	1,069	1,319	高知県	4,391	2,914	1,296	2,203
群馬県	2,294	1,530	644	759	滋賀県	3,255	1,267	577	992	福岡県	3,435	2,216	1,056	1,664
埼玉県	17,582	2,741	783	1,834	京都府	68,144	13,326	5,695	8,396	佐賀県	2,345	1,684	855	1,386
新潟県	31,959	21,830	11,981	10,225	大阪府	763	581	251	368	長崎県	803	416	160	229
長野県	6,752	4,196	2,079	3,048	兵庫県	106,131	24,949	7,154	14,554	熊本県	1,008	689	272	435
千葉県	6,417	1,321	617	883	奈良県	3,066	2,309	1,052	1,992	大分県	1,922	804	215	569
東京都	1,228	929	376	660	和歌山県	1,898	1,087	516	940					

（注）1. 「吟醸系」とは、吟醸酒及び純米吟醸酒を示しています。
2. 「純米系」とは、純米酒及び純米吟醸酒を示しています。
3. 製造数量が 200kl 未満の県については記載を省略しています。

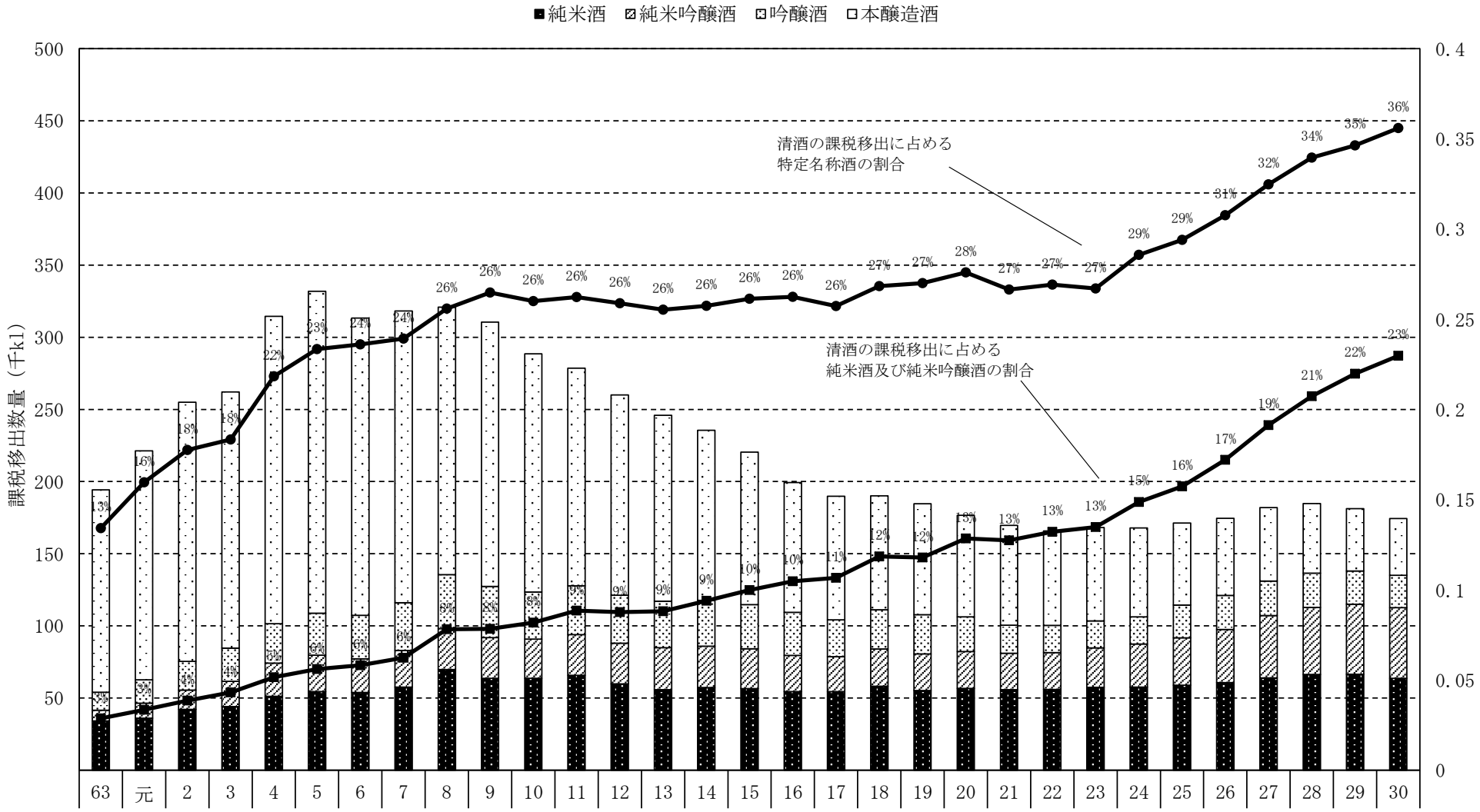
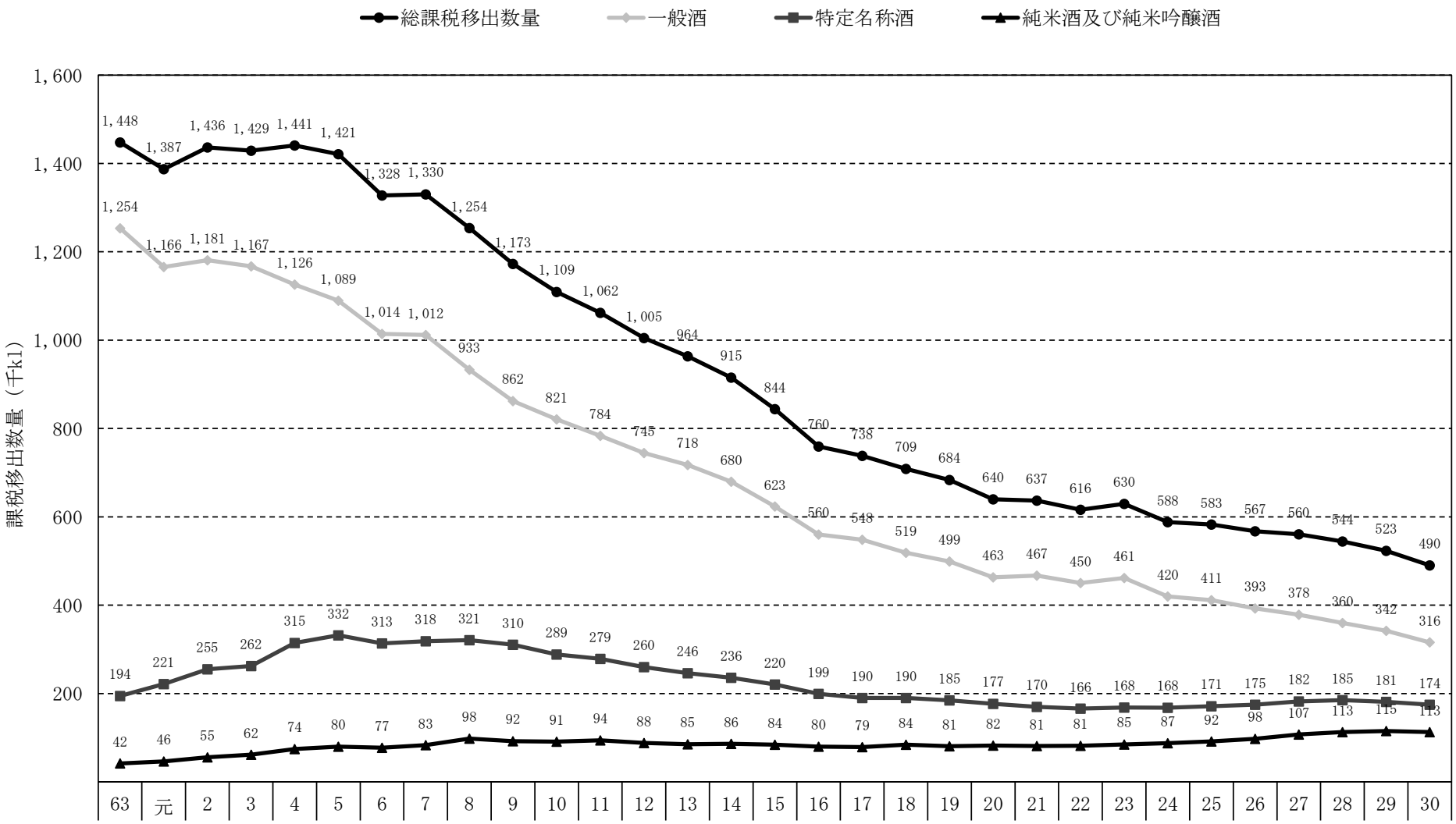
＜参考３＞清酒製造数量の推移

（注）　1. 昭和52年以前の値については、本調査開始以前に本調査とは体系の異なる調査の結果から算出された値であるため、参考値となります。
　　2. 清酒製造数量のピークは昭和48年です。

＜参考４＞玄米使用数量の推移

（注）　1．昭和52年以前の値については、本調査開始以前に本調査とは体系の異なる調査の結果から算出された値であるため、参考値となります。
　　2．玄米使用数量のピークは昭和48年です。

＜参考５＞特定名称酒の課税移出数量等の推移



＜参考６＞清酒のタイプ別課税移出数量の推移